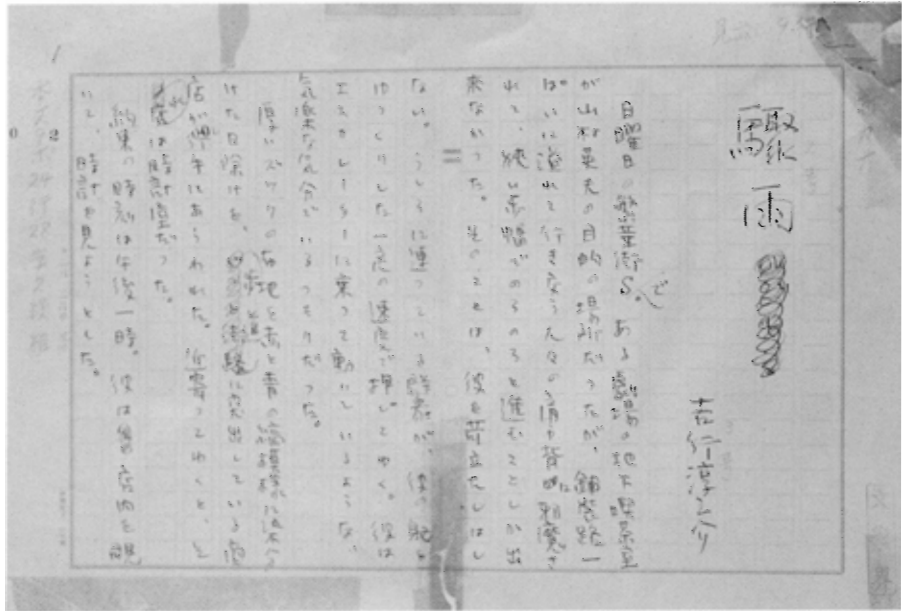
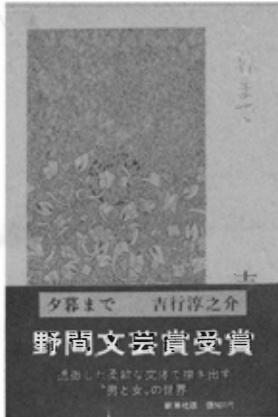


# 吉行淳之介略歴

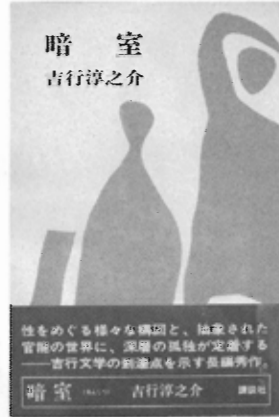
- 1924.4.13 岡山市楠屋町生まれ。作家吉行エイスケ・あぐりの長男。あぐりは美容師、実妹和子は女優、理恵は詩人・作家。2歳の時、父母とともに東京市に移住。
- 1936.4 麻布中学校入学。
- 1940.7 エイスケ死去。この年休学。翌年、5年級に復学。
- 1942.4 静岡高校文科丙類入学。翌年休学。この頃から同校の仏語教授・岡田弘氏に師事、以後長く知遇を得た。東京帝国大学文学部英文科入学。
- 1945.4 『葦』創刊。7月『世代』創刊とともに同人となる。
- 1947.7 『新思潮』の創刊とともに同人となる。平林文枝入籍。『新太陽社』の『モダン日本』の記者となる。
- 1950.1 『薔薇販売人』を『真実』に発表。
- 1951.12 『原色の街』を『世代』に発表。
- 1952.7 「三田文学」に発表した『谷間』が第27回芥川賞候補。
- 1953.1 「群像」に発表した『ある脱出』が第28回芥川賞候補。
- 1954.7 『驟雨』で第31回芥川賞受賞。
- 1955.11 『星の降る夜の物語』『漂う部屋』刊行。
- 1956.1 『原色の街』、12月『焔の中』刊行。
- 1957.11 宮城まり子と知りあう。
- 1958.10 『恋愛作法』、『男と女の子』刊行。
- 1959.3 『鳥獣虫魚』を『群像』に発表。
- 4 『娼婦の部屋』、10月『すれすれ』刊行。
- 1960.5 『風景の中の関係』刊行。宮城まり子と同居。
- 1961.4 『街の底で』、12月『闇の中の祝祭』刊行。
- 1962.10 『わたくし論』刊行。
- 1964.3 『砂の上の植物群』、5月「芥川賞作家シリーズ」・『痴』『香水瓶』『手品師』刊行。10月外国旅行宮城まり子同行。
- 1965.5 『不意の出来事』刊行。
- 11 『不意の出来事』で第1回新潮社文学賞受賞。
- 1966.9 『唇と歯』、2月『軽薄派の発想』、9月『星と月は天の穴』、11月『吉行淳之介軽薄対談』刊行。
- 1967.3 「文学界新人賞」、「文芸賞」選考委員就任。『星と月は天の穴』で第17回芸術選奨賞受賞。3月『赤い歲月』、5月『吉行淳之介初期作品集』刊行。
- 1968.1 翻訳『愛と笑いの夜』（ヘンリー・ミラー著）、8月『なんのせいにか』、11月現代語訳『好色五人女』刊行。
- 1969.3 『現代文学の実験室6』、12月『吉行淳之介の本』刊行。
- 1970.10 『暗室』で第6回谷崎潤一郎賞受賞。「太宰治賞」選考委員就任。
- 1972.1 雑誌「面白半分」初代編集長。「芥川賞」、「泉鏡花文学賞」選考委員就任。
- 1973.2 『樹に千びきの毛虫』刊行。
- 1974.6 『猫背の文学散歩』刊行。8月『四角三角丸矩形』刊行。「川端康成文学賞」選考委員就任。
- 1975.1 現代語訳『万の文反古』『世間胸算用』『好色五人女』『西鶴置土産』（日本の古典10）刊行。
- 2 『靴の中身』で第27回読売文学賞受賞。4月『吉行淳之介自選作品』、5月翻訳『不眠症』（ヘンリー・ミラー著）刊行。
- 1976.5 『石青色と赤』、9月『吉行淳之介エンタテイメント全集』、10月共訳『酒について』（キングズレー・エイミス著）刊行。
- 1977.12 『恐怖対談』刊行。
- 1978.4 『拒絶反応について』刊行。9月『夕暮まで』で第31回野間文芸賞受賞。
- 1979.3 芸術院賞受賞。「街角の煙草屋までの旅」刊行。4月学校法人ねむの木学園理事就任。6月『詩とダダと私と』、10月『菓子祭』刊行。この年のベストドレッサー賞受賞。
- 1980.5 『恐怖・恐怖対談』、6月『サルの檻・ヒトの檻』、『ヴェニス 光と影』（篠山紀信写真）刊行。
- 1981.6 『好色一代男』、7月『夢・鏡・迷路』、11月『赤とんぼ騒動』（わが文学生活全12巻）の刊行。芸術院会員となる。「野間文芸賞」選考委員就任。
- 1982.3 『美酒について』（対談）刊行。
- 1983.4 『吉行淳之介全集』、11月『夢の車輪-パウル・クレールと12の幻想』刊行。
- 1985.4 『街に顔があった頃』（対談）、7月『人工水晶体』で第2回講談社エッセイ賞受賞。9月『特別恐怖対談』刊行。
- 1987.3 『犬が育てた猫』刊行。
- 1989.5 『春夏秋冬・女は怖い』、9月『目玉』刊行。
- 1992.3 『やややのはなし』刊行。
- 1993.6 『老いテマスマス彙編』（対談）刊行。
- 1994.4 『懐かしい人たち』刊行。
- 1994.7.26 聖路加国際病院院長日野原重明氏に脈をとられ、肝癌癌で逝く。享年70歳。
- 8 『軽薄のすすめ』刊行。
- 1997.6 『吉行淳之介に残る言葉』刊行。
- 8 京都伝統建築技術協会理事長中村昌生氏の設計で「吉行淳之介文学館」の建築が始まる。
- 9 『吉行淳之介全集』全15巻新潮社より刊行。
- 1999.5 静岡県掛川市上垂木あかし通りに「吉行淳之介文学館」開館。
- 2000.3 『失敗を恐れないのが若さの特権である』刊行。



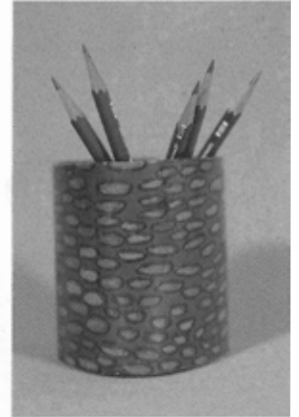
『驟雨』原稿 第31回芥川賞受賞作品



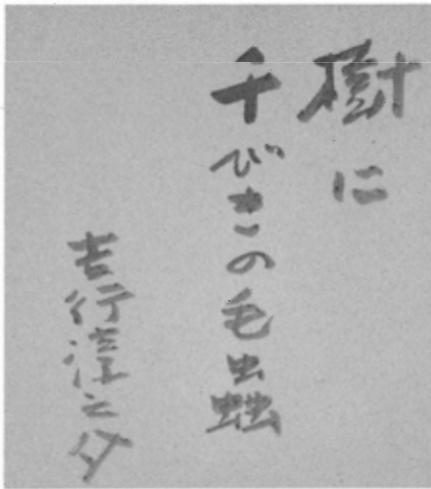
『夕暮まで』第31回野間文芸賞受賞作品



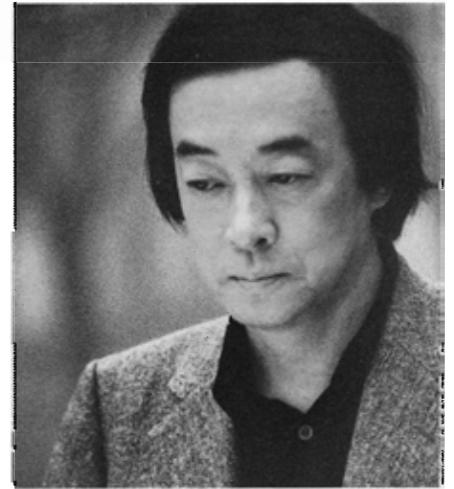
『暗室』第6回谷崎潤一郎賞受賞作品



ペン立て 気に入った絵を貼りつけた手製



色紙



撮影＝篠山紀信

## 吉行淳之介文学館

〒436-0221 掛川市上垂木あかしあ通り1丁目1番地  
TEL (0537)26-3923 FAX (0537)26-3982  
E-mail:nemunoki@nemunoki.or.jp



交通案内 設計＝中村昌生

- JR東海、新幹線利用の場合  
掛川駅下車、北口。ねむの木学園バス(終点まで)約20分。  
※運行時刻をお確かめ下さい。又は、タクシーをご利用下さい。
- 自動車利用の場合  
東名高速道・掛川I.C.から約20分。  
国道1号線・掛川バイパスの大池I.C.又は、西郷I.C.から約15分。

